

川崎市麻生区の住宅地周辺におけるヘビ2種の記録

Two Snakes, *Dinodon orientale* (Hilgendorf) and *Achalinus spinalis* (Peters),

around the Residential Area in Asao Ward, Kawasaki City

雛倉正人

Masato Hinakura

筆者は、麻生区北西部において、シロマダラとタカチホヘビの死体を確認しているのを、記録しておく。

シロマダラ *Dinodon orientale* (Hilgendorf)

1 個体 (轍死体) 麻生区栗平 2007 年 10 月 18 日撮影 (図1)

住宅地の坂道にて発見した。トカゲなどの爬虫類を主食とするヘビであるが、トカゲ・カナヘビは筆者が居住していた麻生区白鳥1丁目付近では目撃されており、この地域の急斜面には竹藪などが残存しているので、生息していても不思議はないと考えられる。

タカチホヘビ *Achalinus spinalis* (Peters)

1 個体 (完全な個体で、川崎市青少年科学館に液浸標本として保管・収蔵番号 3H-078) 麻生区栗木台 2008 年 10 月 2 日採集

発見場所の歩道の背後には残存樹林があり、尻手黒川道路をはさんで野外活動センターの森と対峙している。目立った外傷はないが、乾燥に弱いためアスファルト上で衰弱死した可能性もある。ミミズを主食とするヘビである。

両種の川崎の丘陵地 (麻生区・多摩区・宮前区など) における記録は既にある (北川, 1987)。しかし、夜行性で目につきにくい種であり、1980 年代に比べると、都市化によってヘビの生息環境が減少していることは確かである。川崎の自然環境の現状を語る資料として参考となれば幸いである。



図1 シロマダラの轍死体

参考文献

北川徹, 1987. 川崎市の両生類・は虫類. 川崎市自然環境調査報告 I : 83-90.

著者紹介

雛倉正人 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 昆虫班・水田ビオトープ班